あの日の風景たち

季節の中を小さな旅をして

藤倉英幸（1948－）は、1970年代前半から、イラストレーターというクライアントからの仕事を受注して、クライアントの意向に沿った仕事をしてきました。イラストレーションやグラフィックデザインを独習してきた藤倉は、それらの仕事を実践する中で次第に技量を養っていきます。そして、次第に「頼まれ仕事」だけではなく、「自分にしかできない－描けない－仕事とは何か」を自問自答しはじめます。

時は80年代初頭。昔懐かしい遊びを描いた挿絵や、藤倉自らのエッセイを掲載した新聞連載記事を手掛けます。藤倉はその挿絵を「切り絵」で描きました。これが藤倉の画業を振り返ると、一大転機となります。切り絵は、現在の藤倉の作風—「はり絵」—とは異なり、描かれる対象に黒い輪郭線が特徴です。藤倉はやがて北海道の風景を描くことが自分の使命と自任していくのです。

さらに風景を描くことの探求は続きます。90年代に入ると輪郭線がなく、より北海道の空気感に馴染むと考えた「はり絵」へと移行していくのです。「切り絵」作品は、現在の藤倉「はり絵」作品に至るまでの、いわば「試行錯誤」の時期に描かれたものです。

今回の展覧会では、最近、有島記念館に寄贈・収蔵された、おなじみである「はり絵」作品の近作に加えて、「切り絵」作品もあわせて展示します。どちらも、藤倉が描いた北海道の風景です。その違いを見比べながら、様々な顔を持つ「藤倉作品」を楽しむことができます。

藤倉英幸《馬車にゆられて》はり絵 0000年 当館蔵

藤倉英幸《牧さく》はり絵 0000年 当館蔵

藤倉英幸《オホーツクに昇る》はり絵 2018年 当館蔵

藤倉英幸《春を待つ》はり絵 2022年 当館蔵

藤倉英幸 略歴

1948年、北海道後志（しりべし）・島野村（現・岩内町）生まれ。現在、札幌市在住。高校卒業後、製菓会社などに勤務しながら、イラストレーション、グラフィックデザインを独修。74年、「イラスト&デザイン工房フジクラ」を創立。ポスター、パッケージ、書籍装丁など商業デザインを幅広く手がける。80年代に入ると、北海道の風景や人々の生活に目を向けた「切り絵」作品を発表。80年代後半から「はり絵」による風景画を描きはじめ、自身のライフワークとしている。その作品は、JR北海道車内誌「THE JR Hokkaido」の表紙絵をはじめ、菓子や牛乳パッケージなどで広く親しまれている。『静かな風を聴きながら』（2013年、共同文化社）など画集多数。17年、はり絵原画やポスターなどの印刷物約1万点をニセコ・有島記念館に寄贈。同館にて年間2回程度開催される展覧会で作品をみることができる。

アーティストトーク情報

風景って何 私の風景画論

2024年9月7日(土) 14:00

聴講無料（要観覧料）

講師:藤倉英幸

聴き手:当館学芸職員

ニセコ・有島記念館

NISEKO,ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM

〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地

Tel 0136-44-3245　Fax 0136-55-8484

アクセス

自家用車▶札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間。駐車場完備。

JR▶ニセコ駅より徒歩約30分(約2.5km)、タクシー5分

バス▶道南バス[倶知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分